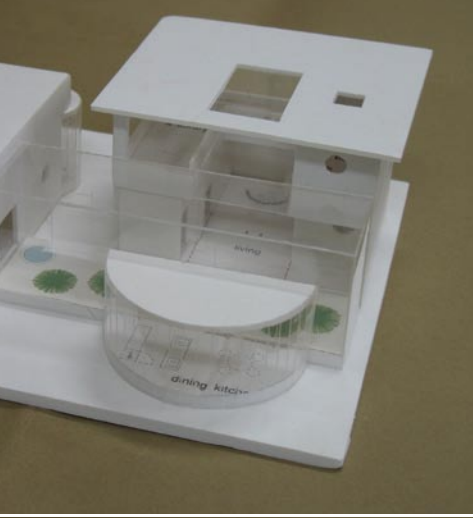
生活環境デザイン作品集

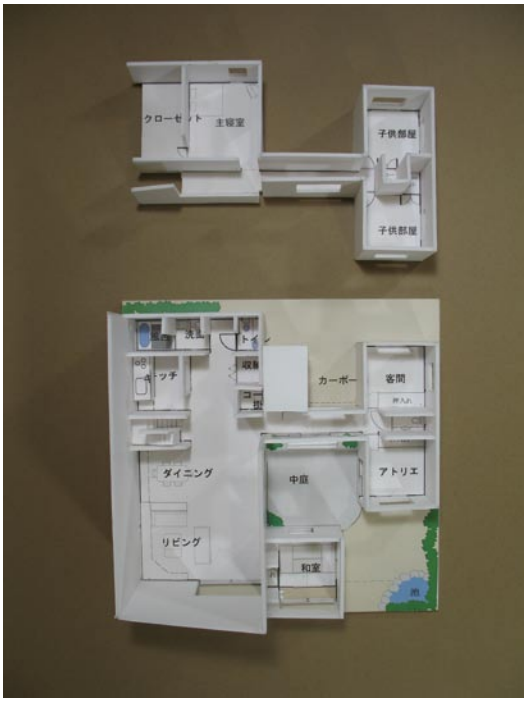
建築



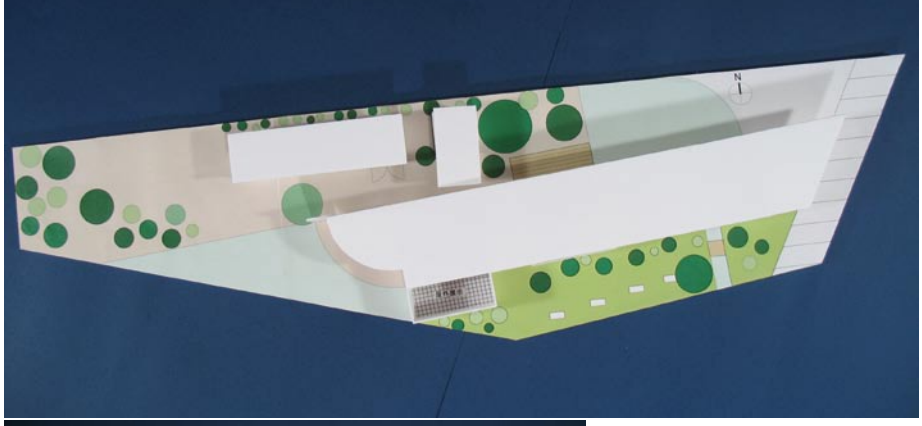
■木村桃子・作（アトリエのある住宅）
この住宅の特徴はアトリエと生活空間を結んだ緑の空間である。それは、芸術家という仕事が神経をつかうものなので、普段の生活の中で、自然と心が休まるような空間が必要だと考えたからである。また壁などをあまり設けないことで、広々とした開放感あふれる空間にした。

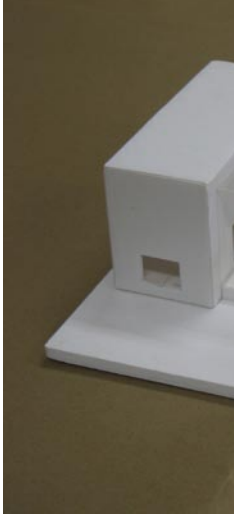
■山根悠・作（小さな美術館）
この美術館の大きな特徴は、宍道湖を含む自然と、幾何学的な建物の造形とのコントラストです。六角形の造形は、円形の建物の歩きやすさと四角の建物の展示品の見やすさを取り入れています。

■伊藤早智子・作（アトリエのある住宅）
吹き抜けのあるリビング・ダイニング。大きな窓から姿をのぞかす中庭。家のいたるところにある大きな窓は、自然の太陽により、家中を明るくしてくれます。

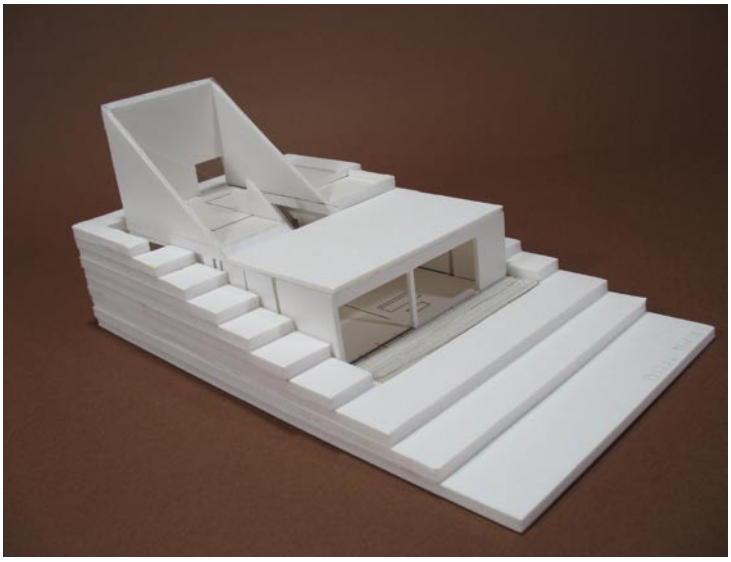


■伊藤早智子・作（小さな美術館）
地元工芸作家たちの活動拠点となるこの小さな美術館。各展示室は台形型に、玄関ホールや中間ホール、カフェは円型の柔らかな空間を演出しています。





■野々村典子・作（小さな美術館）
ルイジアナ近代美術館のような、森の中で芸術鑑賞ができる美術館にしようと思い、なるべく外の自然と一体となるようなつくりにしました。この美術館の部屋をつなぐ廊下は外と同じ土の地面で、玄関ホールから入るとそれぞれの部屋が孤立しているように感じます。しかし、一枚の屋根で部屋をつなげることで、一つの建物としてまとまるようにしました。



■野々村典子・作（斜面に建つ住宅）
敷地条件が南側に宍道湖を望めるということだったので、南側にリビングと夫の趣味の部屋を配置し窓を大きくとった。2 階は広めの玄関になっていて、屋根兼窓は全面ガラス張りでここからも宍道湖を望める。 1 階の東側と西側の壁には縦に細長い窓を設け、外壁は木材を縦に使い、重なり合う木の隙間から光が差し込む感じを家の窓で表現した。

■山根悠・作（アトリエのある住宅）
この住宅はデザイナーの奥さんが創作に専念でき、かつ個人のプライベートスペースを確保できるように、それぞれの個室をバラバラに配置しています。また､住宅のデコボコ感といたるところに設けた庭スペースによって、外部空間との連続感と採光を確保しました。

椅子

■高橋愛弓・作
このソファーは人がすっぽり入ることができる大きさなので、腰掛けることも、そのまま横になって眠ることもできます。

■追分絵梨佳・作
一人で座るときは小さい方は足置きとして使えますが、親子で座るときなどはそれ自体椅子としても使えます。低反発ウレタンなので体にフィットして疲れにくいです。

■伊藤早智子・作
椅子に編みこまれた麻の紐。手作り感たっぷりの椅子の曲線は、和室の〝和〟＝和みを感じさせる。普段は床（畳）に座って眺める部屋も、少し高くなった視線によって、いつもとは違う空間として楽しんでほしい。

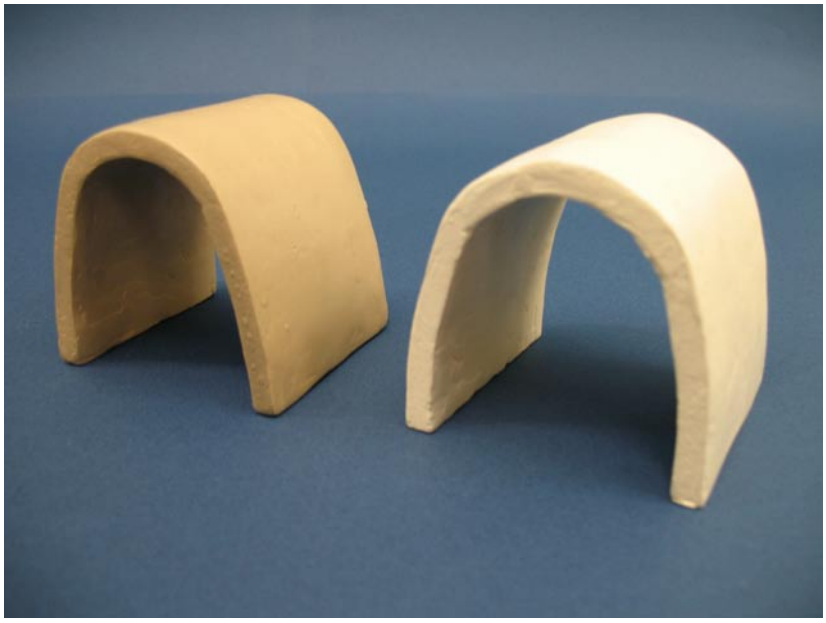
1/5 スケール模型

■熊谷真希・作
このイスはリビングに置くことを考えて作りました。見た目はモダンな感じだけど、背もたれは木を使用しました。

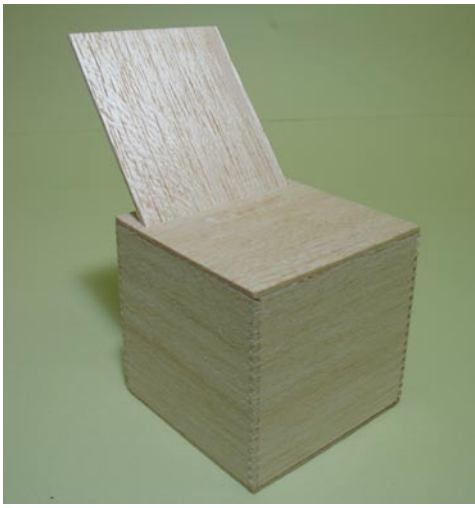
■周谷みどり・作
この椅子は収納ボックスとしても使えます。

■武田祐里恵・作
コンセプトは「リラックス」です。頭から足の先まで、長さを長くして、角度も直角ではなく少し斜めにして、ベッドに近づけました。長さだけでなく、幅も広くしたので、横にゴロゴロすることもできます。

■森山綾香・作
畳の部屋でも使える椅子をコンセプトに作りました。材質は木材で、背もたれと脚は障子の桟のような作りにしました。



■野々村典子・作
散歩をしていてふっと石に腰掛ける、そんな風に使ってもらえるイスを目指しました。デザインはシンプルに、持ち運び易く、優しいカラーで、どこに置いてもなじむようにしました。



■立花実希子・作
見た目はシンプルだが、座る箱部分の角の接合方法を工夫しているので注目して欲しい。

■木村桃子・作
特徴的な形と色で座りたくなるイスを目指した。

編集後記

『のんびり雲』は島根県立大学短期大学部総合文化学科が制作・発行する文化情報誌です

島根女子短期大学は二〇〇七年四月、島根県立大学（浜田）、島根県立看護短期大学（出雲）との統合により、島根県立大学短期大学部（松江キャンパス）と名称が変わります。これを機に「女子」の二文字がなくなり、男女共学となります。同時に、新しい学科、総合文化学科が誕生します。

総合文化学科は「文化資源学系」「英語文化系」「日本語文化系」「生活文化デザイン系」の四つの系で構成されています。世界各地の文化から身近な地元地域の文化まで、長い歴史を有する文化から比較的最近になって生まれた文化まで、大きな文化から小さな文化まで、幅広く学ぶことを目的とした学科です。

『のんびり雲』は、総合文化学科の教員と学生の教育・研究活動の中から生まれた成果の一部を一冊の雑誌にまとめ、広く地域のみなさんにお届けしようとするものです。企画、取材、原稿執筆から編集、誌面レイアウトまで、（印刷・製本以外は）すべて教員・学生の手づくりです。読みやすく、おもしろく、それでいてちょっと知的な雑誌を目指しました。

総合文化学科がスタートするのは二〇〇七年四月ですが、『のんびり雲』は一足早く、創刊準備号を発行することになりました。これから年一回、秋にお届けする予定です。応援のほど、よろしくお願いいたします。

『のんびり雲』――その名前に込めた願い

『のんびり雲』という名前は、いたってまじめな文化情報誌には似つかわしくないかも知れません。先日も、ある人に「名前は『のんびり雲』に決まりました」と話したところ、プッと吹き出されてしまいました。すかさず、「とても良い名前だと思います。目指すところが何となく伝わってきます」と言っていただきましたが……。

「雲」はもちろん、出雲地方で発行される雑誌という地域性を意識して取り入れた言葉です。「のんびり」には、親しみが持てて、読んで楽しい雑誌にしたいという願いが込められています。しかし、それだけではありません。そして、それは創刊準備号の特集を「スローな文化を探して」としたことと深く関わっています。

島根女子短期大学では十五年ほど前から「椿の道アカデミー」と銘打った公開講座を開催していますが、今年度の講座のうちのひとつが実は「スローな文化を探して」というものです。十人ほどの講師がさまざまな角度から「スローな文化」という、わかったようなわからないような、ちょっと風変わりなテーマに挑戦する講座ですが、案内パンフレットではそのねらいを以下のように説明しています。

ひたすらスピードと効率を追求する現代社会。絶えず進歩する利便性や快適さの裏側で疲労やストレスの蓄積にさいなまれる人々。そんな時代にあって、「スローフード」やら「スローライフ」やら、「スロー」を合い言葉とした運動が各地で広がりつつあるようです。それは単に「ゆっくりしようよ」ということにとどまらず、人間の原点、生きることの価値を問い直す取り組みでもあると言ってよいでしょう。

そして、「スローな文化を探して」というテーマの意味するところについて、次のように述べています。

それは、著名できらびやかな文化ばかりを追い求めるのではなく、日常性の中に潜む地味で平凡な文化にも光を当て、再評価しようという試みでもあります。

このように、「のんびり」にはとても深い、大事な意味が込められているのです。

ご意見、ご感想、情報をお寄せください

創刊準備号の内容はいかがでしたでしょうか。ご意見、ご感想をお寄せください。また、こんなテーマはどうか、こんな人、こんなものを取り上げたらどうか、など、次号への提案や情報提供も大歓迎です。お便りをお待ちしております。

のんびり雲　創刊準備号

2006年10月20日発行
編集　「のんびり雲」編集部
（責任者：大塚　茂）
発行　島根女子短期大学
総合文化学科準備委員会
〒690-0044
島根県松江市浜乃木7丁目24-2
TEL. 0852-26-5525（代表）
FAX. 0852-21-8150
http://www.swc.ac.jp/
イラスト　渡部優子
制作協力　小倉佳代子